

2年生

正しいものは美しい

「わあ、きれい！！」一人の女の子が思わず声に出して言いました。九九を唱えながら、糸かけをしていたときのことです。木の板に円を描きその円周上に10個のくぎを均等に打って、それぞれに0から9までの数字を示し、九九の、例えば2の段の答えのうち、一の位の数を順に糸でつないでいく（例えば、2の段で言えば、2,4,6,8,0,2,4,6,8,0というように）と、様々な形が浮かび上がってきます。それは、星の形や五角形など。掛け算という秩序をもった数の列が形として浮かび上がる時、その形の美しさに子どもたちは心をときめかせ、数のふしぎの世界に触れるのです。

子どもたちは、その後、1の段や4の段、3の段など様々な段を唱えながら、夢中になって糸かけをします。「あれ、 6×7 っていくつだっけ？」などと言いながら、時には答えを勘違いして、違うところに糸をかけたりますこともあります。そうすると、あるべき形が現れてきません。そんなときは糸かけのフォームが正しい答えを教えてくれます。このようにして子どもたちは楽しみながら少しずつ九九を覚えていきました。糸かけを通して子どもたちは、ただ単純に美しいフォームに触れるという以上に、正しいものは美しいものだという感覚を体験しました。世界は美しい＝世界は正しいという、子どもが育つ上で感覚として持っているほしい、世界に対する信頼の源を実感できるひとときでした。

1年で最も寒さの厳しい季節に、子どもたちはその寒さに背を丸めて縮こまることなく、元気いっぱい体を動かし、心を動かして世界と出会っています。ゆっくりとこの美しい地上へ近づきながら。

(2年生担任 伊藤誌野)